



服役後の人の立場、被害者の立場。



2つの立場から考えた差別問題

明石市立野々池中学校 1年 谷 健柔

僕は、夏休みに網走監獄博物館に行きました。そこでは、昔の網走監獄の様子をみることができました。当時は、睡眠時間が3～4時間、逃亡を防ぐために二人ずつ鉄の鎖でつながれながらの重労働、貧しい食事などという劣悪な環境で働かされていて、病気やけがなどで亡くなる人も多くいたそうです。なぜそこまでするのだと疑問を抱き、人の命を簡単に扱っているようで悲しくなりました。でも、今は刑務所内では劣悪じゃない環境に改善されていると知りました。

刑務所内では現在は人権を守られていると分かりましたが、出所後もしっかりと人権が守られているのかという疑問を抱きました。例えば自分の周りに、刑を終えて出所した人がいたら、今の僕は普通に接することができると思いますが、他の一部の人で出所した人と関わらなかったり、話しかけられても無視したりする人もいると思います。しかし、インターネットで刑を終えて出所した人が差別された例を調べてみましたが、具体的な例は見つけれませんでした。表立った差別は少ないのかもしれませんが、頭の片隅には出来るだけ関わりたくないという思いがある人もいるのかもしれない。その気持ちは僕も何となく分かる気がします。もし、自分に関わりのある人や自分が犯罪によって被害を受けたら、相手がその犯人でなくても刑を終えて出所した人が身近にいたら、関わりたくないと思って避けてしまう気がします。

しかし、逆に自分が犯罪者や犯罪者の身内側の立場で考えてみたら、それは辛いことだと思います。関わってくれる友達もほとんどいなくなり、クラスメイトに話しかけても無視されたりするかもしれません。毎日のように迷惑電話や SNS での誹謗中傷によって学校はもちろん外へも行けなくなるかもしれません。大好きな陸上部の活動もできなくなるかもしれません。犬の散歩も夜中に行かなければならなくなるかもしれません。引っ

越しや転校をすることになるかもしれません。そして、どんどん孤独になっていたり、引っ越したとしても自分の立場を隠して生活することになったりすると考えると悲しくて自分は耐えられないと思います。

だから、加害者や加害者の身内に対しての差別は絶対に無くなってほしいと思います。しかし、被害者の立場になると加害者を許すのはとても長い時間がないと被害の辛さは消えず加害者の差別を無くすことは難しい問題だということも分かります。

でも、被害者でもない人が加害者や加害者の身内へ差別することはおかしいと思います。更には SNS での誹謗中傷をしたり、家の周りに野次馬の様に押しかけたり、迷惑電話を掛けたりなどは加害者だけではなく、加害者の家族、身内の人生をも壊すことになるので本当に許されないことだと思います。

そこで、どうすれば、刑を終えて出所した人やその家族、身内が受ける差別を無くせるかについてインターネットで調べてみました。すると、様々な人が支援を行っていると書いてありました。例えば、服役後の人が住居を得られるようにお金を貸したり、さらに新しい職につけるように技術を教えたり、人手不足の企業へ派遣して、仕事のスキルを身に付けさせたりという取り組みをする団体もあるそうです。これを見て僕は、まだ中学生で出来る事は少ないけれど、このような服役後の人や身内を支える取り組みを行っている人がもっと増えてほしいと思いました。

この作文を書く前は服役後の人やその身内の人への差別があることをほとんど知りませんでした。人権作文を書くにあたって、色々な事を調べたり、色々な立場から考えてみたりして、本当にこのような差別は悲しく、辛いので、絶対に無くなってほしいと強く思いました。しかし被害者は、この辛さと同じくらいの被害にあっているのだとも知りました。作文を書く前は、差別はいけないという考えしかありませんでしたが、視点を増やすと差別はいけないだけとはいえ、差別の問題はとても難しい問題だと思いました。でも、差別は本当に辛いことなので、服役後の人や身内の人々の苦しみを理解して、差別をしない人達が増えてほしいと願います。